

クロアチアの旅

はじめに

7年前、クロアチアの旅行を計画したが、社会主義国家から独立したばかりで、ホテルの施設も整っておらず、旅先には現地のガイドと車・運転手が義務付けられ、費用がかさむため、観光化が進むのを待っていた。

今回、5/18~5/27、クロアチアには日本から直行便が無く LH0711 2Fジャンボ機(520人乗り)で、成田からフランクフルト経由クラーツ(オーストリー)に飛び、ここからバスで2.5時間かけてブレッド(スロヴェニア)に入り、成田→クロアチア 9500 km、16時間の長旅のスタートである。
ちなみに、各国を巡って走ったバスの総距離は2700kmであった。

フランクフルト (ドイツ)

フランクフルトで乗り継ぎ時間があつたので、フランクフルト市内を観光した。ゲーテの家(写真撮影禁止)は4Fになっていて、アンティークに目の無い家内が釘付けになっていた。家具や調達は金持ちだったゲーテ家の様相が随所に表れていた。市内の丘になっているレーマブルクは、ドイツを代表する木組建築が一目を引いた。



ゲーテの生家



レーマブルク広場



木組建築

バス旅行の進路



バス旅行のルート

今回の旅行進路は、北西にオーストリーと東南にギリシャが位置し、イタリア半島に面したアドリア海を海岸にしたバルカン半島の旧ユーゴスロヴィア(スロヴェニア、クロアチア、モンテネグロ、ボスニア、ヘルツェゴビナ)5カ国の世界遺産を巡る観光である。

クロアチアは、6世紀初め南スラブ民族がバルカン半島に移住し、1992年クロアチア共和国として独立した。食物は、アドリア海沿岸で捕れる魚介類を使用した料理が豊富で、スカンピ(手長海老)のグリルやシーフードが代表的である。チーズとハムを使ったザグレブ風のカツレツは美味である。ワインやチョコレートはお土産品に最適だ。

ブレッド、ポストイア、ピラン、ポルトロシュ (何れもスロヴェニア)

周囲6 kmのブレッド湖の中島にある聖マリヤ教会に16人乗りのボートで上陸し見学した。一方、ブレッド湖から小高い丘に建つブレッド城にバスで登った。同城から遠方に見える同国で一番高いトログロ山(標高2864 m)が珍しく快晴に恵まれ観ることが出来た。頂上の薄く雪模様に見えるのは石灰石である。ブレッド城からブレッド湖の小島に建つ聖マリヤ教会の写景は実に美しい。この地方は、スロヴェニア屈指の保養地だ。



ボートで聖マリヤ教会に向かう



ボートから観た聖マリヤ教会



ブレッド城



トログロ山ト城



ブレット城から観た聖マリヤ教会



ヨットハーバー

スロヴェニアは、石灰石の大地が広がっており、ポストイナは石灰石をピフカ川の流れて 10 万年かけた浸食で形成されている。同鍾乳洞は、世界トップクラスの全長 27km と壮大だった。途中までトロッコで入り、その後約 90 分の探索し、再びトロッコで出てきた。鍾乳洞内(撮影禁止)は年間 8 度で涼しく、ラッキーにも白いウナギの幼虫に似ている哺乳類(名前不明)を見ることが出来た。同入口に“日本がんばれ!! 東北がんばれ!!”の大きな張り紙と世界中の愛が一杯入れられた大きな募金筒を見た時、家内は嬉し泣きをしていた。

ピランは、アドリブ海に面した町で、ヨットハーバー、聖マリヤ教会などがあり、エチオプリエ地方の塩田で手作りの塩や塩チョコレートに人気があった。宿泊は、海が見えるポルトローシュの町で旅の疲れをいやした。

ザダル、シベニク (何れもクロアチア)

ピランから貿易港のリエカを経て、ザダルへバスで半日かけてやってきた。途中、海岸線の海は海底が石灰石であるから、太陽の光に反射して鮮やかなコバルトブルーが目を引き付けた。ザダル市内には、聖ドナト教会がある。市内を観光していると、内戦の爪痕が随所に残っていた。海岸には、36 本のパイプを海中に設置して、海水の波音が共鳴し、オルガンの響きに聞える。カメラのメモリー画像が消え、紹介出来ないのが残念!

ザダルには、古代ローマの繁栄を残す建物としてビザンチン様式の聖ドナト教会がある。

アドリア海南部のダルマチアと呼ばれ、クルカ川の河口に開けた港町シベック市は、代表建築に石材を矩形に切断し崩れないように積み上げた、ルネッサンス様式で完成された世界遺産の聖ヤコブ大聖堂がある。また、ワインや生ハムの特産品も人気があった。

シベニクからクルカ国立公園に向かう途中、シベニク近くのクルカ川の陸橋に差し掛かった橋から眺めたクルカ川の景色は美しかった。この辺りは、海水と真水が混ざってウナギが捕れるらしい。宿泊は、シベニク泊で疲れた身体を早目に休めた。



聖ドナト教会



聖ヤコブ大聖堂/世界遺産



シベニク市内

クルカ、スプリット、ネウム (何れもクロアチア)

クルカ川がもたらすクルカ国立公園を紹介しよう。この川には、19km に海水が混水し、残る 50km が真水から成り立っている。川の両岸に沿って 2 時間散策した。奥入瀬渓谷を何 10 倍もスケールUP した川や滝がもたらす眺めは壮大そのものだ。公園内には、いちじくの木が沢山群生しており、動物のエサになっているようだ。山野草を期待したが、目に留まる花は見当たらなかった。



クルカ川の入口



小滝のクルカ川



クルカ公園内の滝

スプリットは、奴隷の息子から身を起こしたディオクレティアヌスが、ローマ帝国の皇帝になり広大な領土を効率良く治めるために、自分を含め 2 人の皇帝と 2 人の副皇帝を設け、ローマ帝国を復元させた。彼は、ローマ帝国を退官後、海が見える郷里スプリットにディオクレティアヌス宮殿(世界遺産)を建設した。屋敷は、200m × 200m で囲み、敷地内に雇人、家畜を住ませた。当時のごみが地下室に残っている。彼の死後、雇人達が住んでいた住居に難民が住み始め、現在約 1000 人住んでいるという。宿泊は、ドブロヴニクで明日が待ち通しい。



ディオクレティアヌス宮殿/世界遺産



宮殿内の教会



難民が住み着いた住居

旅行のハイライトであるドブロヴニクに行くには、クロアチアからボスニアヘルツェゴビナの国境を越え、ネイムの町でスーパー(日本ではドライブインに近い)に立ち寄り、チョコレート、ドレッシングなどに土産品を買った。我が家は、アルコールが飲めないで購入しなかったが、この地方は葡萄の栽培が盛んで、美味しいワインがあり旅行者に人気があった。この地方は生活環境が低いので、販売価格は格安である。このボスニア国内の距離は、わずか9 kmを通過しないと目的地のドブロヴニク(クロアチア)に行けない。そして、再びボスニアの国境を出国してクロアチアに入国するのである。



フライト中心の税関スタンプから自動車の税関スタンプ

各々の税関を通過するには、役人が我々旅行者1人々のパスポートと顔を照合する。実に、時間を要しバスが行列を作っている。彼らは社会主義の歴史があるから、税関の役人は長い行列に無頓着で、先進国の生産性向上やお客様へのサービス(気配り)に無関心ようだ。特にボスニアの役人には、我々の運転手が袖の下(貨幣、品物)を渡していた。これを解消しないと、国際的観光ビジネスに程遠いと思う。

ただ、過去のパスポートの税関通過スタンプは、飛行機のマークだったが、今回初めて車のマークで税関通過スタンプ(顔の照合だけでスタンプを押さない税関もあった)を経験した。特に、左図のように税関スタンプを整理し、訪問国を思い出すのも面白い。

スタンプには、中央下段に税関の所在地が表示され、→が入国、←出国を示している。

宿泊は、ドブロヴニクの旧市街のホテルで、明日の観光に英気を養った。明日が、楽しみだ。

ドブロヴニク (クロアチア)

「アドリア海の真珠」と呼ばれ、世界遺産のドブロヴニクはクロアチア観光の最大の狙いだ。ここには、ロマネス様式のフランスシスコ会修道院、沖合で難破した英国王リチャード獅子心王が助けられお礼の大聖堂、ピレ門、スポンザ宮殿と名所がある。・・・カメラのシャッターが作動不能となり極めて残念だ!・・・内戦で破壊されていたロープウェイが復旧しスルジ山に登り、旧市街地の屋根のオレンジ色と青い海のコントラストが美しい。ここ迄は、毎日ホテルを変えた旅行だったが、初めて同ホテルの連泊でゆっくり観光が出来た。



スルジ山から旧市街地/世界遺産を視る



城壁沿いにウォーキング



当時の城壁

モスタル (ボスニアヘルツェゴビナ)

トルコの影響の大きいモスタルは、1993年に独立したが、セルビア軍の攻撃を受け、町のあちこちに内戦の痛ましさを強く感じた。

1993年8月11日、自国を守る地元軍と占領軍の戦いで、占領軍から空爆を受け石橋が崩壊したビデオを見て戦争の怖さを直視した。

市内には、16世紀に革なめし業で汗を流したハマス(トルコ式浴場)が当時の面影を残していた。町はトルコの影響を大きく受け、路上はトルコ風のお土産物の雑貨店が多く並び、トルコを観光している錯覚を受けた。ホテルは、ビバッチ(ボスニア)で同じホテルに2泊した。



内戦の爪痕



爆撃後復旧した石橋



トルコ式浴場

プリトヴィツェ (クロアチア)

前泊は、小さな田舎町のビバッチで、クロアチアから面倒な通関のボスニアに足を延ばした。目覚めると、アダホテルに沿って流れる川に川幅約20m、高さ2m程の横一杯に広がった滝があり、川のせせらぎが旅の疲れを癒してくれた。

今日は、ボスニアとクロアチアの出入国を2回繰り返し、ザダルとザグレブの中間に位置するプリトヴィツェ湖国立公園を6時間(途中休憩含む)掛けてのウォーキングだ。同湖は、16の湖と1140の滝(最大落差78m)で成り立ち総面積約200平方km有する。分り易く説明すると、稲栽培の棚田をスケールUPした構造である。即ち、川上の湖から次の湖に落差があるから、公園内の至る所に滝となって下の湖に最高400mの断崖を流れ落ちている。代表的な湖に長さ639mのプロシャチャン湖がある。そして、湖は深い森林に映えるエメラルドグリーンで、クロアチアを代表する景勝地である。川上のプリトヴィツェ川は、コラナ川→クパ川→ザヴァ川→ドナウ川→黒海へと続いている。



ビバッチのホテルに接した川



国立公園内の滝



エメラルドグリーン湖

同湖には、動植物と共に豊かな森林、草花の生殖地が豊富である。森林は、ブナとモミが大部分である。クロアチアは、北海道と同じ緯度だから、高山植物を期待していたが、土中が石灰石のために期待を裏切られた。しかし、同湖周辺には高山植物の種類は少ないが、チドリ、ギンラン、松虫草、ススラン、フウロ、野生で初めて見たクリスマスローズ、オダマキ、新発見の黄花アザミ、初めて出会った花びらが細い紫花など旅行の後半に満足することが出来た。特に、黄花アザミと初出会いの紫花を探し求めたい。水面で沢山泳いでいるマスに似た川魚はフナ系とのことである。ちなみに、今日の万歩計は24,000歩、13km歩き、太股がパンパンに張ってしまった。宿泊は、わざわざクロアチアから税関を入出国してビバッチ(ボスニア)でとった。



探索時間を短縮させる遊覧船



上段の湖から下段の湖に落ちる



公園内の大滝

ザグレブ (クロアチア)

宿泊したビバッチからザグレブに向かう途中、ラストケの町で前日観光したプリトヴィツェ川から流れてきた水が滝になってコラナ川に落ちている景色に出会った。望遠レンズを持ち備えていなかった上、カメラのシャッターが作動不能で、写すことが出来ず残念だ。

クロアチアの首都ザグレブは、オーストリー、ハンガリー、ルーマニアの影響を受け、ハンガリーに似た町である。観光先のクロアチアの他の町では、日本料理店や中華料理店そして日本車と出会わなかったが、さすが首都だけあって、ラーメン店、マクドナルド店、日本車を発展した。

市内を代表する建築物は、今改修中の高さ 105m のゴシック様式の聖母被昇大聖堂、城壁で囲まれた出入口の石の門、国会議事堂(写真右)と聖マルコ教会(写真左) などがある。国会議事堂といっても国柄普通の建築物に見過ごされそうだ。また、青空市場でイチゴ、サクランボ、トマト、アンズ(とても美味しい)などが売っていて、イチゴ 1 パック 400 円前後と格安だ。旅行中、野菜不足の食事が続いており、モスタルとこの青空市場でトマトやフルーツを買い求め、ホテルで美味しく頂いた。



改造中の聖母被昇教会



聖マルコ教会(左)と国会議事堂(右)



青空市場

あとがき

- ・過去は自分で行きたい旅先を独自で企画し、家内と海外旅行を実施してきた。しかし、クロアチアの単独旅行はコスト高、交通便、ホテル、税関などが面倒で、初めてツアーに参加した。ツアーの利点は、コスト安で効率良く諸手続きを添乗員が代行するのでムダが少ないが、時間刻みで気ぜわしく落ち着かない。家内は、旅先で仲良くなった友人 3 名(同じツアー)と共に行動し、食事時に私とその 4 人に合流していた。私から解放され、羽を伸ばして楽しんでいたようだ。ツアーの皆さんから、夫婦の別行動を注目されていたが、このような楽しみ方もある。
- ・社会主義の旧ユーゴスラビアは、国民が上司から指示待ち体制で消極的であり、税関で何 10 台ものバスが待たされていても、仕事を早めようとしめない。実に、生産性の低い国民である。そして、税関の役人が袖の下を求めている事実を直視したが、彼らが自由(経済)競争から勝ち国の発展が出来るだろうか? 何故ならば、恵まれた自然環境を保有しながらも、観光ビジネスの発展が大きく阻害されそうだ。
- ・各地の案内人は、日本から付き添った添乗員の他に、各観光地で現地人が対応しているが、現地に日本語の話せるガイドが皆無で、現地ガイドの英語を添乗員が日本語に通訳している。コスト高で真の意味が伝わらず残念だ。現地のガイドは、自努力が薄く成長度が期待出来ない。観光立国の成長条件は、現地通訳のあり方、車を停滞させない生産性を重視した税関の改善、競争するホテルのサービス(改長→成長)などが急務だ。
- ・外国の地方を旅すると、日本では完備されたオシュレット式トイレ、部屋のロック、バスタブ(湯船)が無いホテルに直面するが、経済環境をも合わせて、何時これらが整うかがポイントになる。
- ・昔、モスクワ空港の照明が、先進国に比べると 20% 程で暗かった。社会国家の節約規制か経済的要因だと考えていた。今回、クロアチアの家内の照明を観察すると、1 家屋に 1 部屋の明かりが中心だった。理由は兎も角、東北震災で電力不足対応に同国の省エネ習慣を見習うべきである。
- ・今回のツアーの 80% が女性、夫婦は 4 組と少ない。1 人旅行者が目立っていた。クロアチア旅行者は、世界各国を旅し、内容の濃いクロアチアに 1 人で来る、旅のベテラン揃いと見受けた。

PS : フランクフルトから成田の帰路、11 時間を本旅行のブログ原稿に充てた。ところが、愛用していたニコン D70 のメモリーがガイドの聴講器による電波障害を受け、シャッターの作動停止とメモリーに収録されていた画像が全て消えてしまった。旅行の初日からドブロヴニク迄の私の全画像が消え、その後シャッターの作動不能となったので、旅行が終わりに近付いたモスタルから家内のカメラを借り、ブログ用に画像を撮ったので少しは満足出来る写真になった。家内のカメラは、今時珍しいフィルム付カメラを使用しており、ブログ用画像の私とは大きく異なり、美的(芸術)思考の写真(画像)が中心で、私が使用したいブログ用の写真が少ない。そんな家内の写真の中から、モスタル迄のブログに採用出来る写真を選択し、その写真を私のデジカメで写し直し、機中で作成した文章を大幅に変更し、家内の写真に合わせたブログ作成に思わぬ時間を要した。見苦しい画像(ピンボケなど)をお許し願いたい。次の旅行に合わせ、ニコン D5100 のマクロ・広角・望遠レンズを新調する所存である。

2011 年 6 月 11 日 横林寛昉